ガーナでそろばんプロジェクト 113　号（2024 年 2 月 28 日）

★★　大人の学びは己を過信しないことが大切　★★

二学期も中盤となってしまいました。二学期に集中してそろばんの授業を取り入れる目標は、今月は六年生〇回、五年生は三回実施出来ました。この五年生においては、一月から始め計七回の授業となります。六回目の授業よりそれぞれそろばんを貸して計算の実践をしました。繰り上がり繰り下がりはするけれど、まだ重要な五珠の動きはありません。それでも、繰り上がる時は、左に進み一つ珠を置くことを理解できるようになりました。珠を置けない時は〝make10〟を考える事。そろばんをする時はいつも〝make10〟を考える事。そう伝えると子どもたちは元気に〝yes〟と返してきました。何よりも変化が大きく表れたのは、初回に私からカミナリを落とされた女子三人の授業に対する態度でした。指導用そろばんで珠の動きを何度も実践して伝えます。それを見て与えられたそろばんに自分で珠を弾き、とても嬉しそうな顔を見せるのです。こうした授業が出来るのも担任効果も考えられるのです。五年生の担任の女の先生は、一回目の授業から参加してくれています。〝トシコが授業に来てくれた。ラッキー〟と教室から出ていくことをしないのです。むしろ〝給食が出来るのが遅いわ。それまで休み時間にはしないでそろばんやりましょう〟と言ってくれ、私がこれまで何人と見てきた残念な先生ではないのです。各自がそろばんを持ち計算をした日、この日は繰り上がり繰り下がり無しで、珠がそのまま置けたり、取れたり出来る三口の計算の時も、答えが合っていた時に、実に子どもと同じようにうれしそうな顔を見せるのです。この5年生の担任に感化され男の先生も通りすがりから授業参加へと変わりました。言われた時から期待はしていませんでしたが〝そろばんは素晴らしい。私にそろばんを教えて欲しい〟と言ってきた中学クラス担当の先生は、あの後授業を見に来ることさえありません。私の中では、己を過信している残念な先生という思いがあるのでしょう。話しは、担任の女先生に戻ります。答えが合っていると子どもと同じようにうれしそうな顔を見せた先生から〝わからない〟と言われたのがmake10を考えての繰り上がりでした。〝置けない時はmake10を考えてその数を取って左に一つ珠を置く〟そう説明すると理解したようで早速男の先生に教え、これまた男の先生も理解し答えが合っていると子どもと同じように元気いっぱいに〝yes〟と返事をするのでした。〝九九を暗記すると、そろばん一つでこんなことも出来るよ〟と告げ三桁×二桁の肩落としの乗算を披露し、携帯の電卓機能で子どもに答え合わせをしてもらいました。もちろん正解です。子どもはもちろん二人の先生もたいへん驚いていました。子どももこの二人の先生にも、乗算除算が出来るようになってもらいたいなと思った出来事です。

報告　TOSHIKO

報告　TOSHIKO

協賛

トモエそろばん様

子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。